

(別紙2)

## 審査の結果の要旨

氏名 渡辺 達郎

本論文は、『平家物語』の錯綜する諸異本の生成と展開を、主要な三種の異本を中心に据えて、それらの組成や構造の視座から解明することを意図したものである。従来の研究史の中で確定されてきた異本の位置付けを参照しつつも、通説に寄りかかることをせず、従来の検討過程の中で比較的等閑に付されてきた観点から、あらためて考究をすすめ、おおむね通説を裏付ける結論に達するが、その間に新たな解釈や、通説と異なる伝本間の関係を見いだすなどの大きな成果を挙げた。

従来、何らかの『平家物語』作者を示す伝承と捉えられていた『平家勘文録』を、語り本系異本の成立を伝承の形式をとって叙述したものとする。古態性の評価に揺れのある屋代本を語り本の最古態本と確定し、寛一本は屋代本に古態の読み本系異本で増補した本文であるとする結論を導いている。その関連の中で、従来の芸能史研究では、『平家物語』が田楽能に影響を与えたとされてきたが、逆に田楽能が『平家物語』に影響を与えたと見るべきことを実証した。古態性を残すとも言われてきた四部本が、『平家勘文録』の伝承を基礎に製作された異本であり、真名本『曾我物語』に依拠して作られたことを論証し、通説と逆の先後関係を結論する。

真名本の成立理由などはさらに検討が必要とされるであろうが、本論文は、以上のように、多数の異本の存在の中で混迷し袋小路に入っている感のある『平家物語』伝本の展開に、新たな照明を当てたものとして高く評価しうるものである。よって、審査委員会は、本論文が博士（文学）の学位に相当するものと判断する。